

諸井会長挨拶

狭山市の発展に寄与できる団体に成長したい

「さやま市民大学同窓会」と新たな名称となって2回目の総会を迎えることが出来ましたのも、多数の会員の皆様のお陰と感謝致しております。

本日は6人の来賓のご出席をいただきましたが、中でもこの7月で退任される仲川市長には長年にわたりSSCGに始まって元気大学、市民大学、そしてこの同窓会にと多大なご理解と支援にご尽力を賜りましたことに心から感謝を申し上げます。さやま市民大学の小山学長にもご出席いただいておりますが、この同窓会は市民大学と太いパイプも築きつつあると思っております。大学の講座運営、あるいは、市民団体講師としても協力させていただいております。また、市民大学修了生のこの会への入会も配慮いただいております。感謝申し上げます。私どもの同窓会は、狭山の市民団体として、もっともっと誇れる存在に、そして、狭山市の発展に寄与できる団体に成長していきたいと願っております。

市長ら来賓4人のご挨拶（要旨）

● 仲川幸成市長　SSCGに続く市民大学の卒業生は既に各分野で活躍し、市の活性化に貢献している。市民大学は極めて独創的で、全国でも「さきがけ的」な組織である。同窓会は趣味や学びを通じて相互の仲間作りをしながら、地域貢献を目指す意義ある団体だ。この意味からも新しい市長には、文化、ボランティア、趣味等に対する理解と留意を伝えたいと思っている。自分自身の公民館活動等の経験から、昨今の若年層の社会参加の減少傾向には問題があり、地域の重要性についての再認識が必要であると思う。同窓会のますますの健闘を祈念する。

● 磯野和夫市議会議員　市民大学は他の自治体からの視察も多く、全国的に認知された団体である。時代に合致しているので、ますます活動範囲を広げて狭山市の活性化に貢献してほしい。

● 松本晴夫教育長　所管のSSVCは同窓会が主体となって立ち上げたもの。新しい生涯学習の方針（三本の柱）の中で学習の機会を創出して「学びとまちづくりの合体」を推進していただきたい。

● 小山周三さやま市民大学学長　本大学の目標は、まちづくりと地域づくりへの「志」を持つ人を創り出すことである。この3月に第1期生380人が卒業し、2年目となる4月には310人が入学したが、10月には後期5講座の開設があり、合わせて400人程度の卒業生が見込まれている。これは全国的にも規模の大きな組織なのである。将来的には先進的な市民大学として「狭山モデル」を目指したい。